

## 【神奈川】「医師会参加も立派な貢献」医療機関が無理なくできるSDGsとは-二宮威重・中川駅前 歯科クリニック院長に聞く◆Vol.2

2021年8月6日（金）配信 m3.com地域版

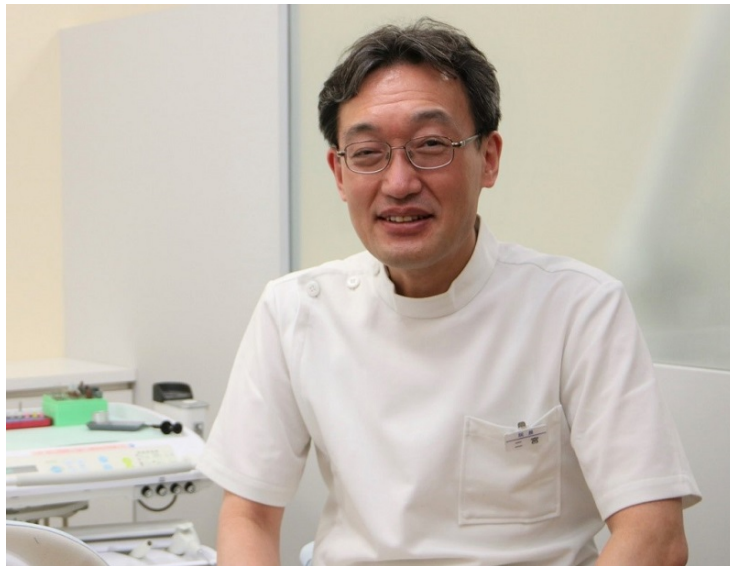
患者ニーズへのスピーディーな対応やブルー・オーシャン戦略によって、開業以来、20年連続で増収を続けるという「中川駅前歯科クリニック」（横浜市都筑区）。二宮威重院長は患者満足度の向上と経営合理性を追求するだけでなく、2018年からは「SDGs（エスディージーズ、持続可能な開発目標）」に向けた取り組みも行っているという。「医療機関が無理なくできるSDGs」とは何なのか、具体例を聞いた。（2021年6月16日インタビュー、計2回連載の2回目）

▼第1回はこちら

### ——中川駅前歯科クリニックではSDGsに向けた取り組みも行っているとホームページに書かれていました。

2018年から意識して取り組んでいますが、これはどちらかということ、結果的に当院の活動がSDGsの内容に沿っていたため、ホームページで周知するようになりました。多くの歯科医院が行っていることと思いますが、生活保護受給者を受け入れ、患者さんの経済背景を考慮して診療内容をご提案することは、17あるSDGsの目標の中の「貧困の根絶」に合致すると思いますし、また当院が行っている女性スタッフ支援は同じく目標の一つである「ジェンダー平等の実現」に該当すると思います。

一般的な歯科医院はスタッフが少ないので、ある人が産休などを取ったら経営者は代わりを補充する必要があり、既存のスタッフは辞めざるを得ないケースが少なくありません。一方、当院はスタッフが多く休みを取りやすいため、産休後も復帰してくれる人がいます。また、女性に限らずセミナーや勉強会にかかる費用を補助していますが、これはSDGsの目標の「質の高い教育の実現」につながると思います。「人生100年時代」の今は常に勉強し続けることが大切ですから、当院では1回の勉強会参加につき2万円まで補助しており、年12回までは補助が適用されるようにしています。



二宮威重院長

### ——歯科医師会の活動もSDGsへの取り組みに挙げていますね。

歯科医師会や医師会の活動は医療者が最も行いやすいSDGsに向けた取り組みと言えるでしょう。当院の場合は組織体制や経営方針などがちょうどSDGsの内容に沿っていましたが、一般的な医療機関が「社会貢献の時代だから」とよく考えずSDGsに自院を当てはめようとすると、経営がおかしなことになる可能性があります。その点、歯科医師会・医師会の活動への参加は無理がありません。

会が行うさまざまな活動はやはり地域医療に貢献するもので、SDGsの目標で言えば、「全ての人に健康と福祉を」や「質の高い教育の実現」に該当します。現在は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のPCR検査やワクチン接種を医師会の先生方が行っていますが、これも立派なSDGsに向けた活動です。私も都筑区歯科医師会の活動としてPCR検査の補助員を務めています。

私が加盟する横浜市歯科医師会と神奈川県歯科医師会は今年度からSDGsに向けた活動に力を入れており、私は横浜市歯科医師会の事業担当者として活動しています。また、当院はこのほど、SDGsを推進していく県の事業「かながわSDGsパートナー」に県内の歯科医院としては初めて認定されました。

#### ——都市部では医師会・歯科医師会の活動に消極的な人もいます。

実は、私もそうでした。歯科医師会の活動は半分ボランティアですから、「時間が取られるのにお金はもらえない。私が職場を抜ければその分、収入が減るだろう」と、開業当初はそんなふうに思っていたのです。

転機は、尊敬する先生から相談されたことでした。「先生、月に一回でいいから（会に）出てくれない？」と言われ、「この先生が言うてくれるなら…」と引き受けました。すると、周囲から活動参加への打診が増え、気が付けば会の中でも積極的に活動するメンバーの一人になっていました。私は現在、都筑区歯科医師会と、都筑区の医師・歯科医師・薬剤師が集まる都筑区三師会の理事、横浜市歯科医師会の常任理事を務めており、また都筑区役所や区内の医療介護関係者で構成される都筑区医師会地域多職種連携協議会の幹事も務めています。多いときで月に15回ほどの活動を行っていることもあります。

予想外でしたが、歯科医師会の活動は経営にはマイナスどころかプラスに働きました。会の活動に参加している先生方には自分より一回り、二回りも器の大きな人がいらっやあって、人として学ぶことがたくさんありますし、会の活動にはちょっとしたヒントがごろごろ転がっています。他の先生方との何気ない雑談から患者さんのニーズや先進的な治療などの情報が入ってくるので、それを自院の経営にフィードバックできるのです。いろいろな話を「ふうん」で流すのではなく、「あ、そうなんだ！」と敏感にキャッチする感度の良さも経営者には大切なのではないのでしょうか。会員の先生方から患者さんを紹介されることもあります。

#### ——院外活動にも積極的に参加しているのですね。同院では睡眠時無呼吸症候群の治療や在宅医療を行っており、医科歯科連携の機会も多いと思います。心がけていることは。

睡眠時無呼吸症候群の治療では聖マリアンナ医科大学病院など、周術期の口腔管理では昭和大学横浜市北部病院などと連携しており、ほかにも口腔内の問題が原因で発症する掌蹠膿疱症（しょうせきのうほうしょう）では聖母病院（東京都新宿区）と連携するなどさまざまな医療機関と協力関係にあります。

医科歯科連携ではまず、積極的に地域の研修会などに参加して、地域の先生方と顔の見える関係を築くことを大切にしています。これが出発点です。そして、患者さんを紹介していただいた場合は、主治医の先生や患者さんの期待を裏切らないよう、成果を出せるよう誠実に診療することを心がけています。情報共有をおろそかにしないことも重要でしょう。

医療の世界では機器やITの発達などによって自院完結型に向かいやすくなっており、開業医はとすればクリニックにこもりがちになりますが、外に出てみると思わぬ出会いがあるものです。連携診療はこれからますます重視されてくと思うので、外に目を向けて行動することを引き続き心がけていきたいですね。

#### ◆二宮 威重（にのみや・たけし）氏

1996年に東京歯科大学を卒業後、2000年に「中川駅前歯科クリニック」を開設。診療の多角化を推進し、睡眠時無呼吸症候群や舌痛症の治療、在宅医療や管理栄養士による食事・栄養相談も行う。都筑区歯科医師会理事、都筑区三師会理事、横浜市歯科医師会常任理事、都筑区医師会地域多職種連携協議会幹事を兼任。

【取材・文・撮影＝医療ライター 庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

